

令和3年度地域少子化対策重点推進交付金(令和3年度補正予算)実施計画書 (都道府県分) 個票

自治体名 高知県 (都道府県: 高知県)

事業メニュー	優良事例の横展開支援事業		
区分	機運醸成の取組		
関連事業メニュー	2.2.1 各地域において、結婚、妊娠・出産、乳児期を中心とする子育てに温かい社会づくり・機運の醸成の取組に向けた基礎として、地域の関係者間の情報共有、地域における課題の抽出・分析等を行う取組		
個別事業名	高知版ネウボラ推進事業	新規/継続 (一般財源での実施も含む)	継続
実施期間	交付決定日 ~	令和5年3月31日	事業開始年度 平成29 年度
対象経費支出予定額 ※(注)1	18,462,170		円
自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け ※(注)2	県民の誰もが住み慣れた地域で、健やかで心豊かに安心して暮らし続けることのできる高知県を目指し、「日本一の健康長寿県構想」に3つの柱を掲げて、課題解決のための取り組みを進めている。 この柱のひとつに、「子どもたちを守り育てる環境づくり」を位置付けており、「高知版ネウボラの推進」及び「厳しい環境にある子どもたちへの支援」で施策体系を構成している。 当該事業は「高知版ネウボラの推進」に該当する。		
(個別事業の内容) ※(注)3	<p>1. 高知版ネウボラの推進による子育て支援体制の構築【継続】</p> <p><現状と課題></p> <p>本県では、妊娠前から子育て期まで切れ目のない総合的な支援である「高知版ネウボラ」を推進し、「子育てしやすい地域づくりを目指した子育て支援サービスの充実」と「妊娠前から子育て期までの関係各部門が切れ目なく連携し、子育てのリスクを見逃さず支援する体制づくり」の2つを柱として取り組んでいる。</p> <p>令和3年度は、各部門間の連携体制等における現状・課題を把握するため、母子保健・児童福祉・子育て支援担当部署の市町村合同ヒアリングを全市町村で実施、さらに、3部署を対象とした「高知版ネウボラ推進セミナー」を開催し、有識者の講演や県外先進県の事例報告等による横展開を図った。また、希望のあった市町村に対し専門家等を(オンライン)派遣し指導・助言を行ったが、新型コロナウイルス感染症対応等で業務が繁忙となり、派遣は2市町村(見込)となった。母子保健・児童福祉・子育て支援・教育の部門間の連携は、市町村ごとに濃淡があり、特に児童福祉と教育(SSW)の連携については十分とはいえない状況がある。</p> <p>また、子ども家庭総合支援拠点の設置は34市町村中12市町村となっていることから、拠点の設置促進を図り多機関が連携支援を行う仕組みづくりを進めるとともに、個々の家庭の状況に応じた支援力の向上に取り組む必要がある。</p> <p><課題への対応></p> <p>令和3年度に引き続き、令和4年度も各市町村に対して専門家や自治体職員による指導・助言を行い、市町村の具体的な課題への対応を行う。令和4年度は子ども家庭総合支援拠点の設置予定市町村が多いことから、先進的な取り組みを実施する自治体や有識者等から拠点設置や運営に関するアドバイスを受けることで、子ども家庭総合支援拠点を中心とした母子保健・児童福祉・子育て支援・教育の各部門間の連携強化(特に児童福祉と教育の連携強化)など質の向上に取り組む、妊娠前から子育て期までの切れ目のない支援体制の充実と、子育てに温かい社会づくり・機運の醸成を図る。</p> <p>また、地域子育て支援センターへの個別支援等により、母子保健と子育て支援の連携強化の取り組みを推進し、妊娠からの子育て支援センターの利用促進を図る。</p> <p>①市町村へのアドバイザーの派遣による指導・助言等:5市町村×3回 ②地域子育て支援拠点 機能強化アドバイザー派遣による助言・指導等:市町村等5回実施 ③研修会の実施:1回実施5講座) ・交流会等を通じた子育て支援活動のネットワーク化による新たな子育て講座等の実施…県内各地域で10回程度(5サークル2講座)</p> <p>2. 住民主体の子育て支援活動におけるネットワーク化の推進【継続】</p> <p><現状と課題></p> <p>身近な地域で安心して子育てができるよう、地域で気軽に不安や悩みを相談できる支援者の育成、交流の機会づくりの推進など、地域住民が主体となった子育て支援サービスの充実を図ることが必要。</p> <p>①地域人材の育成 ・子育てサークルや地域子育て支援センター、市町村、市町村社協など地域の子育て支援関係者が参加した「子育て交流会」を2回(予定)実施し、子育て支援者による事例報告や参加者の情報交換等により、お互いの活動内容や考え方について理解を深めた。</p> <p>②交流の場の提供 ・子育て講座等を実施するサークル等を公募し、子育て講座等の実施を支援(8サークル等、43講座(見込))</p> <p>③情報の収集及び発信 ・民間子育て支援サイトに子育て講座等の記事を掲載。また、子育て講座等(通称「つむサポ」)のInstagramによる講座等の情報発信を行った。</p> <p>コロナの影響で「子育て交流会」の実施が当初の計画(10月)より遅れての開催となり、子育て支援関係者のお互いの理解は深まったが、委託先とサークル等との関係づくりに時間を要し、地域における子育て支援のネットワーク化までには至らなかった。</p>		

<課題への対応>

子育て家庭の孤立防止、安心して子育てできる環境づくりに向けて、地域で気軽に不安や悩みを相談できる地域人材の育成、交流の場の提供、情報発信を実施するとともに、令和4年度は、サークル等が地域の公的支援や民間資源とつながり、地域内の子育て資源による連携した取組が創出されるよう、各地域における子育て支援活動のネットワーク化につながる取組を支援する。

①地域人材の育成

- ・研修会及び情報交換会の実施…年2回(開催予定時期:6月及び12月、対象:地域の子育て支援者30人(30団体))
- ・各地域での子育て支援のネットワーク化のための取組を支援…3地域

②交流の場の提供

- ・子育て講座等を実施するサークル等を公募し、子育て講座等の実施を支援する…県内各地域で25回程度(5サークル5講座)
- ・交流会等を通じた子育て支援活動のネットワーク化による新たな子育て講座等の実施…県内各地域で10回程度(5サークル2講座)

③情報の収集及び発信

- ・こうちプレマnet掲載記事:10サークル
- ・Instagramで情報発信:投稿数100

④事業の検証:研修会等の参加者にアンケートを実施し、事業効果等を検証(アンケート対象者:①及び②参加者350人程度)

3 妊娠・出産・子育てに関する情報の発信ツールの強化

(「こうちプレマnet」のリニューアル、父親の育児参加の啓発、低出生体重児保護者のための子育て支援)【継続】

<現状と課題>

・全ての家庭が安心して出産・子育てができる環境づくりを進めるため、妊婦及び子育て家庭を対象に、妊娠期(胎児期)及び乳幼児期における適切な情報を提供し、健やかな育ちを支援することを目的に、出産・育児応援サイト「こうちプレマnet」を運営している。

・令和3年度は、利用者が必要な情報にアクセスしやすいように、「こうちプレマnet」のトップページデザインやレイアウトの改修を行ったが、母子保健サービスや各種相談窓口情報の掲載が不足している等、コンテンツの見直しや充実が必要である。また、「こうちプレマnet」の認知度は、約23.2%(R2県民意識調査)にとどまっている。

・父親の育児参加促進においては、高知版父子手帳「パパの本」を作成し、市町村での母子健康手帳交付時等に配布しているが、さらなる父子手帳の認知度の向上と利用の促進が必要である。

・また、出産・子育ての情報ツールとして母子健康手帳の補完的冊子「お母さんと赤ちゃんのためのサポートブック」を作成しているが、低出生体重児とその保護者への支援に関する情報発信ツールはないため、小さく産まれた子どもとその保護者が安心かつ喜びを持って楽しく子育てできる環境づくりが必要。

<課題への対応>

・「こうちプレマnet」のリニューアル

妊娠期から子育て期の多様な相談窓口や子育て支援サービスなどの情報を充実し、母子保健サービスや子ども食堂など地域の子育て資源の情報を新たに掲載するほか、現在掲載している情報の整理や見直しを行い、利用者が必要とする情報のキーワードに関連する複数の選択肢からニーズに合った支援や相談窓口などの情報にスムーズにたどり着けるよう、サイトのリニューアルを実施する。さらに、妊娠中の方や子育てを頑張っているママやパパのために、出産や育児に役立つ情報や先輩ママからのアドバイスなどをタイムリーにお届けしている定期メールマガジンを利用率の高いLINEによる配信に変更することで、マガジン配信の利用者の増加につなげる。

また、ポスターやチラシを市町村や地域子育て支援センター、医療機関や保育施設など関係機関に配布するだけでなく、少子化対策推進県民会議の構成団体や高知家の出会い・結婚・子育て応援団への周知など、チラシ配布や広報誌掲載によるこれまでこうちプレマnetを見ない世代に向けてアプローチするとともに、「個票②」で実施するデジタルプロモーション事業とあわせて展開することで若い世代に効率的にアプローチし、アクセス数の向上を図る。

・リニューアル時期:10月予定

・ポスター作成:700部(配布先:市町村(34)68部、地域子育て支援拠点(48)48部、医療機関(150)150部、保育所等(400)400部)

・チラシ作成:5,000部(配布先:市町村(34)340部、地域子育て支援拠点(48)240部、医療機関(150)750部、保育所等(400)2,000部、応援団1,000部)

・父親の育児参加の啓発:父子手帳を活用した、情報提供

高知県版父子手帳「パパの本」を増刷のうえ、市町村や医療機関等に配布する。市町村の母子保健や子育て支援の担当課や医療機関等には、別途実施する子育て支援のデジタルプロモーション事業で作成する高知版ネウボラの取組のチラシと一緒に配布し、子育て支援の情報を一体的に周知することでさらなる認知度の向上と利用の促進を図る。

・作成予定:5,000部(配布先:医療機関(150)1,500部、市町村(34)3,000部、地域子育て支援拠点(50)500)

・低出生体重児保護者のための子育て支援:リトルベビーハンドブックの作成

小さく産まれた子どもを持つ保護者のための母子健康手帳を補完する冊子「高知県版リトルベビーハンドブック」を作成し、市町村や医療機関等に配布する。保護者同士のつながりや支援機関とつながる一つのツールとして活用されることで、全ての家庭が安心して出産・子育てできる環境づくりを強化する。

・作成予定:300部(配布先:市町村(34)100部、医療機関等(27)150部、福祉保健所(5)50部)

【次年度以降に向けた事業の方向性】

令和5年度以降上記事業を継続して実施することで、「高知版ネウボラ」の推進を図る。

少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)4	KPI項目	単位	目標値	現状値
		「安心して結婚、妊娠・出産、子育てができるような社会になっている」と考える方の割合	%	40 (R4)
参考指標 ※(注)5	項目	単位	直近の実績	
	合計特殊出生率	%	1.48 (R2)	
	婚姻件数	件	2,440 (R2)	
	婚姻率	%	3.6 (R2)	
個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)6	KPI項目	単位	目標値	現状値
	1 高知版ネウボラの機能強化			
	母子保健と児童福祉が定期的な情報共有を実施	市町村	全市町村	31 (R3)
	育てにくさを感じたときに対処できる(相談先を知っている等何らかの)	%	95.0	87.2 (R2速報値)
	2住民主体の子育て支援活動におけるネットワーク化の推進			
	研修会及び情報交換会参加団体数	団体	30	
	研修後の意識変容・行動変容がみられる団体の割合	%	80	
	子育て講座等の参加者数	人	400	
	子育て講座等の参加者の肯定的意見(講座等が必要)の割合	%	95	
	3 妊娠・出産・子育てに関する情報の発信ツールの強化			
	「こうちプレマnet」アクセス数/年	件	120,000	83,514 (R2)
	「こうちプレマnet」LINE登録者数/年	人	400	
他自治体との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)7	本事業は、市町村と連携し事業展開していくこととしており、高知版ネウボラの推進による子育て支援体制構築、住民主体の子育て支援活動におけるネットワーク化の推進では、市町村との協議を行いながら実施する。妊娠・出産・子育てに関する情報の発信ツールの強化についても、市町村において子育て家庭への周知などに協力いただく。			
民間事業者との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)8	<ul style="list-style-type: none"> ・「こうちプレマnet」のリニューアルでは、「高知家の出会い・結婚・子育て応援団」や「高知県少子化対策県民会議」の構成団体等の民間事業者に周知及び広報PRに協力いただく ・高知県版父子手帳「パパの本」の医療機関での配布・説明を依頼 			
委託契約の有無 ※優良事例の横展開支援事業又は重点課題事業を実施する場合のみ記載	有			
上記「事業内容」について、「地方創生推進交付金」の申請の有無	無			